

雜 錄

ルクサンブルグ冶金工業概況 (1924/1925) (8月20日附在アンヴェルス松本領事代理報告) **爲替の影響**
 クルサンブルグ市商業會議所發行年報に依り1924年度のルクサンブルグ大公國冶金工業の大勢を見るに本年度は稀なる不況を極めたり其原因是主として爲替相場の影響なり即ち當地方は戦後の習慣として殆ど全部の輸出貿易は英貨を以て取引せらるゝ例にして冶金工業も亦同様の關係上若し法貨の相場下落するときは冶金業者の入手する白貨額は増大し大に利益を受くべきも之に反し法相場上騰するときは入金額大に減少し却て不利を蒙る状態なり蓋し生産費其他國內の支拂は白貨を以てせざるべからざるを以てなり本年度の不況は實に此事情に依りたるものにして本年法相場に高低の著大なりしこと左の如し。

	毎 月 平 均				毎 月 平 均		
	磅	佛法	米弗		磅	佛法	米弗
1 月	101.75	111.85	23.90	7 月	96.10	112.54	22.03
2 月	112.22	115.31	23.09	8 月	89.98	108.90	20.00
3 月	111.51	121.22	25.95	9 月	90.36	107.47	20.23
4 月	83.88	117.41	19.34	10 月	93.42	108.91	20.81
5 月	89.51	119.34	20.57	11 月	95.34	109.09	20.71
6 月	94.98	115.02	21.96	12 月	94.48	108.31	20.13

右の如く一月乃至三月は法下落の頂上に達し冶金業者に取り最好況時代なりしも四月以降となるや白貨俄に暴騰し従て賣上代金に一大減收を來したるにも不拘其生産費は何等異なる處なく加之他面爲替相場の變動多きと又其の高低の著大なるとは不絶市場に動搖を與へて久しく買控の状態を繼續せしむるに至り其間製品の多くは原價以下にて販賣せらるゝの苦境となり最不況に陥りたるが 10.11 月となるや多少好況となれり、**獨逸向輸出激増**但し此好況は順調のものに非ずして一時の特殊現象に過ぎず即ち獨逸への輸出急激に増加したるに因る蓋し獨逸に對してはル國生産品はヴェルサイユ講和條約に依り無税通關の特典を與へられ居たるが右特典は1925年1月10日を以て終了せるに依り之に先ち獨逸より一時に巨額の注文ありたるものとすされば同日以後獨逸が禁止的輸入税を課するに至るやル國冶金業は再び不況に陥れり。**生産増加**斯く市場は一般に混亂を極め種々不利の事情下に在りたるも其生産高は却て激増の奇現象を呈せり、是れ各冶金業者が努めて生産増加に依り成るべく原價を縮少せんと専ら生産に盡したる結果にして即ち鑄鐵製造高は前年の1.406.666噸より2.157.170噸に進みて5割の増加を示し又鋼鐵は前年は1.193.471噸より1.880.800噸に上りて5割8分を増し尙之戦前のレコードたる1913年の1.182.227噸に比すれば實に6割の大増加なり戦後の生産高比較左の如し。

年次	鉄生産高(噸)	總價額(法)	一噸價額(法)	年次	鋼生産高(噸)	總價額(法)	一噸價格(法)
1913	2,547,861	163,591,161	64.11	1914	1,128,791	77,097,187	68.35
1914	1,827,270	113,170,161	60.60	1915	967,621	121,553,064	125.70
1915	1,590,773	113,892,183	71.59	1916	1,296,407	195,060,772	150.51
1916	1,950,514	205,794,142	105.54	1917	1,053,596	207,045,891	196.62
1917	1,528,865	231,845,055	151.73	1918	857,937	199,573,806	232.61
1918	1,266,671	254,590,396	201.10	1919	366,231	133,882,768	184.00
1919	617,422	157,870,782	255.69	1920	569,545	430,216,030	755.37
1920	692,935	382,109,601	551.03	1921	750,972	219,836,365	292.73
1921	970,336	239,257,324	246.57	1922	1,387,902	373,362,405	269.01
1922	1,679,318	363,651,540	217.74	1923	1,193,471	580,386,870	486.30
1923	1,406,666	556,612,888	395.79	1924	1,880,800	821,190,542	436.80
1924	2,157,170	760,193,128	352.43				

コークスの供給は前年度にはコークスの不足に依り多數熔鑪の閉鎖を餘儀なくせられ生産高に一大減少を出して一時難局に陥りたることあるも本年度は佛國政府との協定に依りルール地方より正確なる輸送を受け此點何等の支障を見ざりしも本協定は1924年12月1日にて終了せしを以て其後はドーズ案の實施に依り直接地方の炭坑より供給せらるゝことゝなり、依然豊富の供給を受けしも其價格は1年間を通じ何時も鐵の價格よりも比較的高價なるを免れざりき、**輸送状態**は前年には輸送機關の混亂に依り損失を蒙ること多大なりしが本年度も亦四月迄稍々混亂の状態に在りたるも其後は満足なる状態を繼續せり、又輸出港としてはル國より海外に輸出せらるゝ鐵類は殆どダンケルク港に集中せり是れ佛國鐵道はル國及ローレンス等の鐵類に對し特定賃金を設けたる結果にして尙巷間傳ふる如く此上更に特殊の便宜を與ふるに至らばル國産出の鐵類は全部同港に輸送せらるべしと認めらる而してアンヴェルス港はダンケルク港より近距離なるも白國鐵道には前述の如き特典なく此特典の許否はル國冶金業者に取り最關係深きことなればル國は3年前より委員を任命して之が交渉を開始し此間ル國政府及工業家の熱心なる聲援あるも問題は今以て未決の間に在り、**勞資關係**は前項記載の如く本年生産に異常なる増加ありしに幸に國內の失業者を救済することを得尙數多の工場は外國人勞働者をも多數必要とするに至れり、而して物價指數を標準とする給料制度は2月及12月の2回に亘り一般的に賃銀値上を必要としたるも其他勞資の關係は極めて圓滿にして資本家は需要の見地より勞働者は利益の立場より益々相接近し互に信頼を深ふするの好風を形成するに至れり最近の物價指數左の如し。

	1921年	1922年	1923年	1924年	1925年		1921年	1922年	1923年	1924年	1925年
1月	—	399	395	487	523	7月	384	359	440	481	—
2月	—	396	407	500	516	8月	383	357	452	498	—
3月	—	377	422	507	509	9月	404	361	467	503	—
4月	—	364	428	486	508	10月	422	368	465	511	—
5月	—	361	439	471	499	11月	426	387	475	518	—
6月	388	355	437	468	—	12月	398	399	479	530	—

販路の縮小 本年度販路の状態は大差なかりしも近年各國が保護政策に傾き年次關稅引上の途にあ

るも又獨逸に對する無稅通關の特典消滅とは大に販路を縮少することゝなれり加之自然的地位に在る歐洲市場は戰後種々の困難に遭遇し何れも不振の状態にあれば冶金工業も漸次販路を遠隔の市場に求むるの必要に迫られ此點新に冶金業者の一大心痛事たるに至れり。

獨逸との競争 斯く販路に縮少を來し冶金業者の奮起を必要とすると共に尙他面には獨逸との競争新に起れり最近獨逸の冶金工業は米國の資本に依り急速なる進歩を遂げ既に過去一年間に於ても外國市場を脅すこと實に恐るべきものありて殊に獨逸は價格に於て如何なる犠牲を拂ふとも先づ市場に鞏固なる根底を築かんとするの意嚮なれば此際ル國冶金業者は益々緊張の必要あるべく而して其の對策としては最良く消費者に接するの見地より先づ第1に製品の改良を最大要務とすべく又仕上の完全を期せんが爲には差當り工場の改善を企つること實に焦眉の一大急務なりと認めらる其他詳細左の如し。

衝風爐の部		單位	1922年	1923年	1924年	
窯	現在數		47	47	47	
火	入窯數		27—30	28—33	32—34	
作	業週間數		1328½	1169	1677	
就	働職工數		4004	4181	5155	
仕	拂賃銀額	法	25,123.799	27,016.717	38,315.528	
原	鐵消費量	國內產	噸	4,681.419	3,403.079	5,701.779
		外國產	"	823.010	929.434	1,289.851
コ	ークス消費量	"	2,213.332	1,680.281	2,610.756	
生	産高	銑鐵	"	79.986	37.389	56.559
		トマス銑鐵	"	1,598.767	1,365.030	2,097.726
		精煉鐵	"	865	4.217	2.885
		計	"	1,679.318	1,406.666	2,157.170
生	産品價額	銑鐵	法	17,755.394	15,589.743	21,403.968
		トマス銑鐵	"	315,704.846	539,373.145	737,721.710
		精煉鐵	"	191.300	1,650.000	1,067.450
		計	"	363,651.540	556,612.888	760,193.123
製鋼の部		單位	1922年	1923年	1924年	
製	鋼所數		7	7	7	
就	働職工數		1.632	1.898	2.208	
仕	拂賃金高	法	9,317.445	11,395.696	16,357.080	
原	料消費高	鑄鐵	噸	1,501.271	1,282.313	2,037.426
		古屑鐵及石	"	63.284	64.138	96.479
		石灰石及石	"	223.965	199.822	316.425
生	産高	粗鋼	噸	1,387.903	1,193.471	1,880.800
		鑄鋼及電氣爐	"	6.070	7.713	6.081
		除燐渣	"	325.046	284.537	441.212
		其他渣滓	"	20.810	28.200	65.671
生	産格	粗鋼	法	373,362.405	580,386.870	821,190.542
		鑄鋼及電氣爐	"	4,605.305	8,467.020	6,006.459
		除燐渣	"	46,874.126	40,429.639	63,413.679
		其他渣滓	"	283.738	688.512	5,030.153

伸展工場の部		單位	1922年	1923年	1924年
工場	數		5	6	6
就働工	數		3,323	3,708	4,725
支拂貸銀額		法	21,454.024	24,538.127	37,373.296
粗鋼消費量		噸	1,387.291	1,184.412	1,848.073
生産高	半製品	〃	485,315	296.525	616.462
	鐵道材料	〃	79.294	59.079	116.283
	梁桁材	〃	197.472	176.775	236.442
	鋸及小梁	〃	332.112	339.353	469.553
	紡績機	〃	67.646	83.300	95.920
	箍類	〃	32.713	41.215	50.970
	鋏	〃	32.713	175	30
	バルプランシ	〃	300	4.800	2.347
生産品 原價	シート	〃	139.988	120.302	202.307
	半製品	法	154,384.672	160,283.317	308,296.711
	鐵道材料	〃	24,466.567	26,388.494	71,551.951
	梁桁材	〃	76,922.280	113,692.620	134,927.796
	鋸及小梁	〃	134,288.660	226,793.440	276,135.890
	紡績機	〃	28,411.320	71,638.000	65,225.600
	箍類	〃	16,356.500	37,052.300	40,776.000
	鋏	〃	124,500	110.950	15.600
バルプランシ	〃	1,650.665	3,705.072	1,956.488	
シート	〃	23,496.851	30,215.269	58,079.883	
鐵工所の部		單位	1922年	1923年	1924年
作業工場	數		10	11	11
就働工	數		840	928	1,002
支拂貸金額		法	4,711.578	4,780.000	6,113.820
原料消費量	鑄鐵	噸	20.910	13.556	17.745
	古屑鐵	〃	18.325	13.262	17.111
生産高	鐵器管	〃	173	423	1,143
	鐵管	〃	—	24	3.5
	機械	〃	1.957	4.030	4.208
	鑄鋼	〃	980.	1,392	2,208
	建築用材	〃	2,054	2,237	2,133
	各種型鐵	〃	21,332	15,407	22,197
	計	〃	26,496	23,572	31,884.5
	鐵器管	法	260.200	640.100	1,758.130
生産額	鐵管	〃	—	26.000	3.840
	機械	〃	2,282.470	4,194.460	4,743.990
	鑄鋼	〃	1,414.720	1,991.490	4,400.000
	建築用材	〃	1,918.920	2,708.910	2,903.800
	各種型材	〃	8,913.604	8,402.045	16,035.624
計	〃	14,789.914	17,963.005	29,845.384	

印度鉄鐵輸出量 (8月17日附在カルカッタ岩平總領事報告)1924年4月より本年3月末に至るベンゴール省海外貿易統計に依れば印度鉄鐵産出は頗る増加シタタ製鐵所の生産額は1923年の392,135噸より1924年は540,140噸となれり尙又印度製鐵會社の産額は77,980噸より168,249噸にベンゴール製鐵會社は10,005噸より147,733噸に何れも増加せり而して海外よりの需要も亦激増し同年輸出總額は182,938噸價額12,706,300留比より一躍340,171噸21,509,900留比に増加するに至れり日本への輸出は144,013噸より171,614噸となり米國向輸出は24,190噸より133,165噸に増加せり其他英本國への輸出は3,204噸より18,898噸に又伊太利向輸出は839噸より4,494噸に夫々増加せり。

商相八幡製鐵所視察 片岡商相は我國製鐵事業に對する國策樹立の必要上八幡製鐵所視察の爲め10月2日午前8時20分東京驛發列車にて出發6日より9日迄4日間に亘り製鐵所を中心に東海鋼業、東洋製鐵、小倉製鋼所及設備未完成の儘中止の九州製鋼會社等を視察し10月13日歸京し15日午後1時永田町首相官邸に加藤首相を訪問し先般八幡製鐵所を視察した結果商相の腹案として成案を得たる製鐵自給策なるもの約1時間に亘つて報告する所あつたが報告の大要は左の通りである。現在帝國に於いて要する鐵材は約二百萬噸であつて八幡製鐵所其他民間會社に於いて製出する鐵材が合計概略百二十五萬噸であるので約七十五萬噸の鉄鐵その他を外國より輸入してゐる譯であるが將來好景氣となつて鐵の需要も増加するものと見て先づ三百萬噸の鐵を製出することが出来る様になれば當分の間は鐵を外國より輸入しないで済む譯で即ち鐵の自給策が確立することになるのである。而して現在の製産高より二倍以上にもなるのは餘程困難ではあるが、先づ八幡製鐵所の經營方法に一大改革を施し、副産物として生ずる渣滓より煉瓦等種々の物品を製造してこれを販賣しその利益によつて益々大規模の經濟的科學的大製造法を利用し且つ現在における會計法の許す範圍に於いて従業員に獎勵方法を設けて製産高を増加せしむるのである。次に室蘭、釜石、三菱、住友、鞍山站迄其の他の民間の會社には商工省立案の經營方法を掲示してその經營方法に従ふものは之に種々なる便宜と補助を與へて收支償ふ様にするに於いては帝國內で製出する鐵材で國內の需要を充分に滿すことが出来る勘定である。國家百年の大計を立てる上から云へば鐵鑛をも國內のもので間に合はせるやうにせねばならないがそれも今日の進歩した科學的大量生産の方法を砂鐵の如き35パーセント位の含有量の鑛石を原料としても採算が引き合ふ様に採用すればすることが出来ると確信するから帝國の鐵自給策は決して悲觀すべきものでない。

鐵業意見聴取 片岡商相は19日午後2時から官邸に製鐵鋼調査會の委員田大藏、青木鐵道、四條商工の三次官及び中井製鐵所長官、川久保製鐵所總務部長、野田三井鑛山局長、吉野文書課長等を招致し八幡製鐵所の今後の經營方針八幡製鐵所と民間製鐵會社との協定連絡問題、鐵業の保護問題と關稅政策及び原料鐵鑛の供給問題と砂鐵の製鍊費問題等に關し意見を徴し同5時散會したが當日各

自意見を異にするところが多かつたので今後もこの種の會議を開きこれ等の諸點を討議する心算である。

工業家大會最終日 全國第3回工業家大會第3日は18日午前10時から丸ノ内日本工業俱樂部に開會。工學博士青柳榮司、同片岡安、同加茂正雄、同今泉嘉一郎、同佐野利器、同關口八重吉の諸氏を始め會員五百餘名出席、片岡商相、岡田文相代理武部實業學務局長、後藤新平子等臨席。工學博士斯波忠三郎氏を座長に推し前日に引續き。

- (一)動力問題 (動力を豊富低廉ならしむる方策如何)
- (二)國產獎勵問題 (優良品の使用普及を助成する方策如何)
- (三)工業教育問題 (工業教育の改善並に工業知識普及の方策如何)

等につき逐次意見を述べ、正午一旦休憩午後1時半再開、平野東海支部長の提案に基き斯波座長指名の下に決議案の起草委員として動力問題に關しては工學博士米倉清族、同青柳榮司、商工省技師小西正二の諸氏を國產獎勵に關しては工學博士片岡安、笹村吉郎、大塚榮吉の諸氏を、工業教育に關しては工學博士横河民輔、同關口八重吉、神戸高等工業學校長廣田精一の諸氏を挙げ、決議文の起草を一任した、其間片岡商工大臣からの挨拶後藤子爵からの獎勵の辭、岡田文部大臣からの祝詞代讀等があつたのに對し、斯波博士は大會を代表してそれぞれ謝辭を述べ、終つて倉橋工政會常務理事は左記決議を朗讀した、大會はこれを可決して午後6時閉會、これで大會を終つた後同所における懇親會に移つて9時すぎに散會した。

動力問題に關する決議

- (一) 吾人は政府が速に權威ある動力調査委員會を組織し以て送電幹線網完成を促進し、動力資源活用の完璧を期すると共に各種資源の開発上遺利なからん方策を確立せんことを望む。

國產獎勵に關する決議

- (一) 吾人は政府が權威ある中央機關を設け、各官公衙及び公共團體等を督勵して國產獎勵の目的を達成せんがために速かに適切なる處置を採らんことを望む。
- (二) 吾人は全國の産業及び經濟に關する公益團體相提携聯絡して國產獎勵に關する一大機關を作り政府と協力して其目的を貫徹せんことを期す。

八月鋼材輸入高 8月中における鋼材輸入高は横濱 16,334 噸、2,019,515 圓、神戸 9,381 噸 13,663,321 圓、大阪 14,578 噸 1,154,919 圓、合計 40,293 噸、4,540,755 圓
で前月に比し 2062 噸 4,9367 圓の各増加を示してをる内譯左の如し。

		數量(噸)	價額(圓)			數量(噸)	價格(圓)
鉄	鐵	14.668	744.647	ワイアー	ロッド	1.890	199.380
鋼	鉄 屑	1.537	82.272	鋼	板	1.610	259.329
鋼	棒 及 型 物	8.213	841.638	薄	鐵 板	6.257	1,346.983

鋼	線	942	172.920	レ	ル	2.649	247.762
鉄	力	1.312	372.897	釘	類	14	8.544
鋼	管	1.191	262.319	亜鉛引板		10	2.061

製鐵所生産高 八幡製鐵所9月中の鋼材壓延噸數は鋼材 43.455 噸特殊鋼 2.182 噸合計 45.635 噸にて前月に比較すると 887 噸の減少を呈し本累計は 296.416 噸に及んだ。

八幡製鐵所 9 月中鉄鐵出産額 43.155.460 匁

八月中重要鑛物産出高

單位	産額	本年累計	單位	産額	本年累計
金 (千匁)	171	1.333	石炭(千匁)	2.333	19.434
銀 (千匁)	2.724	21.359	石油(石)	129.451	1,005.698
銅 (千斤)	8.130	68.266	硫黄(匁)	30.975	30.975
鐵 (匁)	6.560	40.676			

製鐵鋼の國策は部分的に實行する (片岡商相の談)製鐵鋼の國策問題は頗る重大であるだけに就任以來調査研究に没頭して來た、三日の閣議で始めて包括的に輪廓だけを報告したがその内容については確定までには絶対に話すことは出来ぬ、この方法に對しては**他の閣僚も**反對のものはないやうであるがさて具體案を提示することになれば重大問題だけに相當議論も出るかも知れぬ、豫算決定後でなければ同問題も論議されるには至るまい、しかして該國策を樹立するに當り最初から法律を制定して行ふか、乃至は一、二年試驗的に實行してから更に法律の制定によつて國策を樹立するか、又は組合法の如きものでも制定するか方法としては種々ある、要するに主旨としては製鐵業の共存共榮が目的であることは云ふまでもなく又該國策樹立に對しては將來はいざ知らず目下の腹案ではこれに伴ふ經費の必要は認めてをらぬ、從來合同説が頻りに有望視されてゐるがこれは實行不可能の問題として困難と思ふ、事業の分業化又は**共同的事業**の經營その他トラスト等方法は幾多あるが何れも原料の購入、需要供給等の問題から輸入關係又は關稅などの問題もあり又輸入といつてもダンピング等も當然講ぜねばならぬ、これ等の事項がいよいよ決定すれば茲に本邦の製鐵鋼の國策は樹立されることになるのであるけれども政府のみでやるわけにも行かず、民間當業者にも豫め相談するのは勿論であるが民間當業者と雖もこれには反對あるまいと思ふ、しかしいざとなれば或は反對するものもあるかも知れぬが、その場合は己むを得ない、同意者のみで相談するより道はあるまい、免とに角大體の方策を立てた上部分的に實行に着手するが決定したものはその都度お話する機會があると思ふ **製鐵所官制の根本的改正から着手** 製鐵鋼の國策樹立は大體において順調に進んでゐる模様で政府のみでひ得るものは對策を講ずることに努めて居りその前提として先づ製鐵所の官制殊に任用令を根本的に改正し製鐵所の機能を發揮せしめるはずであると (大阪毎日)